

ジャパンプラブ

NEWS LETTER

Japan Club : 1759 Sutter Street #203, San Francisco, CA 94115 • Tel: 415-931-9424 • www.jpclub.org • jc-sf@sbcglobal.net

4月度理事会報告

「東北・関東大震災」復興を願って義援金募金活動に参加 大震災! こんな時こそ必要な会として、その基本に戻り 発展の為に話し合う

ジャパンプラブ 4月度の理事会は 4月6日(水)午後6時半から日米会々議室において上野会長はじめ8名の理事が出席して開かれ、以下の事柄が討議されました。尚、沖山泰彦会計から1~3月の会計報告がありこれを了承。

議題1) ガレージセール

予定通り5月28日(土)に開催する、更にドナーを募ると同時に当日(前日の準備も合わせて)短い時間でも結構ですでお手伝いいただける人を求めています。(関連記事参照)

議題2) 東北・関東大震災

義援金の募集協力について、本日迄にジャパンプラブに寄せられた義援金は3,000ドルを越えるものになりました、ご協力いただきました方々にお礼申し上げます、また義援金の集り具合は毎月ニュースレターの締め切り日迄を単位にしてご報告します。又、会員の方のご寄付はニュースレター上で、会員以外の方からのご寄付に対しては会としてお礼状を出す事にしました。なお、この募金活動は今しばらく続けていきますのでよろしくお願ひします。(関連記事参照)

・今回の「東北・関東大震災」の記憶の新しい内に皆さんの持っている心配、疑問、経験、アドバイス等を他のグループとの合同も視野にいれて、お互いに話し合える場を作ることを検討する。(会員に限らず)

・緊急連絡網の再確認と更新、メンバーの移動等により、連絡網地域担当の更新、会員名簿の更新が必要になってきましたので、これを早急に進める。

・ジャパンプラブ・ウェブサイトの積極的な活用を計る。などが話し合われました、更に関連情報として、スーザン・オズボーン「日本の為に歌う」4月15日エルサリートのシカモア合同教会(関連記事参照)、二宮祐子(心理療法士)からの「東日本大震災緊急サポートグループ」会合(関連記事参照)の案内がありました。

議題3) その他

・会員数の減少対策、新年度の会員数は1名の新加入に対して日本に帰国のされる湯浅昭さんを含め7名が退会され、4月8日現在55名です。将来の会の発展の為に会員の増やす事が急務です、その為に理事を始め会員個々が積極的に新会員勧誘を働きかける、ウェブサイト会員募集のサイトを設け新会員開拓に繋がる様な運用を考える。若い人にも積極的にアプローチする方法として「ベイスポ」「スポーツ」などのクラシファイドAD欄の活用、更に幅広い内容の勉強会、講演会、講習会の開催機会を多くする。e-mailでの情報発信を定期的に(頻りに)行いジャパンプラブとの繋がりを常に意識、実感できる様に。等の積極的な提案がありました、早速出来る所からはじめます、皆さんも知人、友人等の中で興味のある方に声をかけてください。そしてこの機会に会の目的や主旨を再認識して、災害時の相互扶助の大切さを改めて思い出してください。

・湯浅昭会員が日本に永住帰国する事になりました。2面に湯浅さんからのジャパンプラブ宛の手紙があります、長い間ありがとうございました、どうぞいつまでもお元気で過ごしてください。

・定期総会(7月23日 土曜 午前11時より) 昨年と同じバスセンターで開きます、総会に引き続いて昨年は大好評だった食事を開きます。(詳細は追ってお知らせします)

・ゴルフ大会(7月28日 日曜 午前10時)(詳細は追ってお知らせ)

・「餅つき新年会」のあり方、来年度の新年会について、3月号のニュースレターでもお知らせした通り「餅つき新年会」として長年続けてきましたこの催しもこの辺りで少し新しい企画、アイデアを取り入れないとマンネリ化の感が否めなくなりました、つきましては理事、会員から積極的な意見を求めたいと思います。

「東北・関東大震災」関連行事案内

・スーザン・オズボーン、チャリティーコンサート
「日本の為に歌う」4月15日(金)午後6:30開場、7時開演、エルサリートのシカモア合同教会で、申し込は415-922-2100まで、席に限りがありますのでお早

・「東日本大震災緊急サポートグループ」二宮祐子(心理療法士)この大災害を目の当たりにして、多くの人が心の中で抱えている不安、恐怖、悲しみから少しでも楽になることが出来るように...日本語で話し合える会。
4月16日、23日及び30日(土)午前10:30~11:30まで
2409A Sacramento St. San Francisco (ジャパンプラブ近く)参加希望者は直接二宮祐子さん 415-682-4525まで事前に連絡してください。

東北・関東大震災への義援金

「大災害ですが、きっと東北地方の方は乗り切ると信じていますー山口良子」こんな激励のコメント等がついたジャパンプラブ会員、あるいは会員以外の方々からの義援金は今回の4月号ニュースレター発行締め切り日(4/8)迄に既に3,000ドルを越える暖かいご支援をいただきました。今後もしばらくの間は継続して募金活動に協力していく予定ですのでどうぞよろしくお願ひします。4月8日迄に義援金をお寄せくださった会員の皆様にはこの紙面にてお礼申し上げます、尚、8名の会員以外の方には別途会からのお礼状をお出します。

ありがとうございました (4/8迄に募金された方のみ、お受けした順、敬称略)

| | | | | |
|--------|---------|--------|--------|-------|
| 下村 昌子 | 本田 和活 | 大隅 敏男 | 大隅 妙子 | 浦田 伸夫 |
| 赤川 稔 | 田代 ジョージ | 高橋 輝男 | 黒沢 新平 | 田代 健三 |
| 田中 静江 | 熊井 越子 | 大槻 悦子 | 猪股 邦子 | 古田 紘一 |
| 正田 和代 | 早川 真佐緒 | 貫田 美和子 | 中原 憲子 | 石川 治 |
| 石川 久美子 | 沖山 泰彦 | 山口 良子 | 鈴木 文子 | 山崎 瑞江 |
| 熊井 リナ | 後藤 哲男 | 後藤 しげ子 | 沖山 きみ子 | 上野 正安 |

私のプロフィール 今回は特別記事として、日本への永住帰国を決意された湯浅さんからのお手紙をご紹介します

ジャパクラブの皆さん「日本へ帰ります」 湯浅 昭

1964年夏、東京オリンピックを見ずに渡米し、そのまま駐在してから40数年、ニューヨークとサンフランシスコに住んだ後、この度日本(東京)へ永住帰国することになりました。人生の大体半分づつを日本と米国で過ごしたことになりますが、多くの友人知人からは今更「何んぞ?」という質問を沢山頂いています。老後生活の選択はとても難しいことです。

長い人生には、誰にも何回かの大きな転機(節目)がくるものです。好むと好まざるに拘わらずやってきて、難しい決断を迫られることがあることは皆さんも多かれ少なかれ経験されていることと想像します。そして、人生はドラマのようにその度に舞台が次々と変わっていきます。昔と違って終わりのカーテンが降りるまでシナリオの予見が難しいのが最近の複雑な世の中ではないでしょうか。

今度の永住帰国の動機、選択と決断の理由は複雑で簡単には説明できないのですが、敢えて動機と目的の一部を挙げれば次のようなことなのでしょう。

- 病気・保険の問題: この2年間苦しみ、治癒の見通しが立たない難病治療を日本の漢方などに望みを託してみる。長期にわたるかもしれない治療費、介護費を考慮すると日本の医療介護保険制度のほうが好条件と判断する。
- 言葉の問題: 長年米国で仕事をしてきたし、一般米国人との交わりも続けてきて日常英会話こそ不自由しないものの、大病をしたときの医者との重要、デリケートな英語のコミュニケーション、大きな問題を抱えたときの弁護士との交渉などは中々難しい。その上、年をとると、昔覚えて知っていたはずの英単語も直ぐに出てこないことがしばしばある。
- 西洋文化と米国人: 語学力のハンデは勿論あるが、米国の深い文化、習慣の吸収体得や、多くの人種を理解し親しく深く交わっていくことは意外と難しい。そのような中途半端な米国生活の中に最近はいろいろ疑問を持ち、<このままでいいのか><これから先どうなるのか>という<孤独感・孤立感>を覚えるようになった。
- 老齢年金: 世界中何処の国に住んでも老齢年金は受け取れるような便利な制度になった。今のドル・円為替レートは最悪だが、日本でも間違いなく支給出来るので最低生活費の心配はない。

上記のことを理解出来、同感したとしても、人生の歩みの中に選択肢の無い人、価値観の異なる人も沢山います。幸か不幸か、私達には米国と日本での居住という選択肢がありました。然し大事なことは、二つの国に長年住んでこそ今の自分達があるという意義を認識させられたような気がします。何処にいたとしても人間が住むところ、何処に属しているかなど、単純には割り切れないし決められない。人間としてベストを尽くして最後まで生きる努力が大切だと考えます。

正直に言って、この決断が<吉>と出るか<凶>と出るかわからないが、自分達のことを自分達で判断し、決めて実行したことは3年5年10年後の環境、結果に拘わらず後悔はしないことと信じています。過去の経験からも、多少のリスクはあっても自分を信じて進んだほうが人生は楽しいし、悔いがない選択と信ずるのです。

終わりにになりましたが、私共も長い間ジャパクラブ及び会員の皆さんにお世話になり、ご厚誼を大変有り難く感謝しております。楽しい思い出を沢山持って帰ります。

今回の東北地方沖の大震災は決して対岸の火事ではありません。いつ、何処に居ても、我々に直接、間接に災害が降りかかってきてもおかしくない環境に住んでいます。ジャパクラブは災害対処、相互扶助の連絡網として長年にわたって築かれたネットワークを持ち、緊急時の会員の心身の支えになっています。どうぞこれからも力を合わせて、益々強力、且つ機能的な会として発展されるよう祈ってやみません。

尚、帰国後の住所、電話番号、e-メールアドレス等判り次第お知らせします。

終わり

(注)湯浅昭さんはジャパクラブ設立以来の会員で、2年前に大病を煩われる迄理事としてジャパクラブの発展にご尽力され4月11日に帰国されます、本当にありがとうございます、今後は日本でお元気に過ごされる事を祈念しております。尚、湯浅さんは帰国に際し「ガレージセール」に活用してくださいと、家具類等を含む多数を寄贈してくださいました、重ねてお礼申し上げます。

Sale

ジャパクラブ ガレージセール

日時:5月28日(土曜日) 8:30AM~4:00PM 場所: 2717 Trousdale Dr., Burlingame

当日と前日の準備に会員の方のヘルプが必要なのでぜひご協力ください、既に数名の理事がヘルプの申し出をされています。お手伝いの可能な方、ドネーションする品物がある方は担当の 北 哲也理事 650-714-5958 までお知らせください。

- 施設の説明を受けた後、昼食に招待され、短期糖尿病治療の為の特別メニューを食する事が出来ました。ここで出されるすべての野菜が自家栽培なのです。また、青汁もどきの野菜ジュースの美味しい事...赤川さん曰く“朝日緑健の青汁を飲んでいたが長くは続かなかった。ボックスで買ったが不味いので半分以上捨ててしまったよ。けど、この青汁は美味しい”...商売になると即、我われは合致した。一緒に会食をされたブンチャイ医院長自身が重度の糖尿病だったらしく、自分が実験台になって開発した血糖値リデュース・ドリンクだという。見るからに毒々しいという表現の方が的確な緑の集合体で、一瞬呑むのを躊躇してしまっただが呑んでみて、良くありがちな、のど越しのべた付いたやらしさもなく、スムーズに流れ、それでいて、自然の野菜の甘味があり、爽快な気分させられた。まさに魔法のダイアピティック飲料である。しかしながら、ブンチャイ医院長曰く、3日しか効用は維持出来ないという。粉末はどうか。ならば冷凍...結局、大量の野菜を使用するので、ここでしか需要を賄えないとの事。一攫千金の夢は5分で消滅しました。(じゃん、じゃん、終り) (アユタヤ高齢者医療施設内)

4-2

「タイランド滞在記」

今井 利和 (文と写真)

今月から第四話として3回に分けて掲載しています。

ちょっと待った!...このままじゃ、咲き蕾の花?

やっぱあー、あとを咲かせましょう。今回も実り多きタイ旅行でしたといいたところですがまだ一日目です。8日間の予定なので後7日あります。でも、ビジネスはほとんど終了、あとは自称“NPO”として、恵まれないタイの人々に金銭をばら撒く慈善事業がバンコクで待っていた。連日ゴルフ、マッサージ、グルメ、カラオケと寝る暇も惜しんで動き回るハードスケジュールが続く。そんな中、赤川さんが『MRI』を受けたいと言い出した。“ヤバイ”体調不良か?やはり、人間は60を過ぎ、無理が続くと...大事なパートナー危うし!そこでバンコク市内にあるサミティベート病院へ予約を入れる。(この病院は世界格付けランキングでもアメリカを抑えて堂々の3つ星病院として評価されている)なんと日本人相談窓口がある。受付には日本語を話す看護婦がいて、初診者には丁寧に質疑応答をしてくれる。(何故この病院を知っていたかと言うと、日本のバラエティー番組の特集でタイの『人間ドッグ』は安くてお得と言う録画DVDを友人からもらったからである)偶然にもわたしと赤川さんがプランしていた『タイ人間ドッグツアー』の矢先なので、渡りに船だった。

引き続き4-3を来月号に掲載